

個別施策シート

①幼児教育, ②学校教育, ③高等教育, ④社会教育, ⑤文化, ⑥芸術, ⑦スポーツ・レクリエーション, ⑧家庭教育, ⑨文化財, ⑩若者支援

資料2-2

【第2分科会】

項目	個別施策名(タイトル)	本市の地域資源と課題	委員意見(施策の方向)	実現のための提言
⑩若者支援	若い世代への支援	<ul style="list-style-type: none"> 若い世代への支援が不足している。 若い世代は忙しく、地域活動には関わることができない。 	<ul style="list-style-type: none"> 若い父母への援助、適齢期の男女への援助を、人生経験やキャリアがある学識経験者や、公的な役所にいた職員も担ってくれればと思う。 30代の未婚者が多いので、出会いの場の提供を行い、結婚・出産を支援する必要がある。 結婚・出産の手伝いを官民が連携して行えば良い。市でお見合いパーティーをするだけでなく、民間や専門家との協力で結婚だけでなく、子育てのプロデュースもできるようにしてはどうか。 若者が住めば結婚、出産するので、少子化対策になる。経済界と連携し、若者が住みやすいまちづくりを進めるべきである 	<ul style="list-style-type: none"> 適齢期の男女への援助 <ul style="list-style-type: none"> →結婚相談所、イベントの創設 若い親への支援 <ul style="list-style-type: none"> →リタイヤ人材等を活用した支援制度、拠点の整備、人材育成
⑩若者支援	若い世代への支援	最近の学生は、社会人基礎力が低い	<ul style="list-style-type: none"> 学生証を見せるとどこのお店でも1割引になる制度 学生は傷つきやすく、コミュニケーション能力に問題があるが、学生の良い面を見てあげなければならない。 	<ul style="list-style-type: none"> 学生に温かいまちづくりの推進 <ul style="list-style-type: none"> →将来の担い手をつなぎとめるため、高等教育機関や高校生に旭川の魅力と地域資源を伝えるための取組の推進
②学校教育	子育て世代と地域との相互支援	<ul style="list-style-type: none"> 近文小では社会福祉協議会が主体となり、子どもの見守りを行っている。 PTAの研究大会でも取り上げる予定だが、親も学ぶことが重要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 親は忙しいので地域に頼る。そして親は世話になった分だけ、地域に恩返しする。そういう考え方が重要だと思う。何か課題があれば地域で良い循環が生まれると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域と子育て世代がwin-winになる取組の創設 <ul style="list-style-type: none"> →契約方式による町内会と子育て世代の支え合い(例)子育て世代～パソコン等支援 高齢者～平日の通学見守り等 →期間限定の町内会体験
②学校教育	<ul style="list-style-type: none"> 教育現場における地域の産業に関する教育の推進 子どもたちが本物に触れる機会の創出 高い技術や知識に触れる機会の創出 	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育に問題がある。 地元の魅力を子どもたちに伝えきれていない。 旭川の人で旭川の産業をどれだけ支えているのか。子どもは旭川の家具などの良さを知らずに他地域へ行ってしまおう。 子どもたちの体験学習が不足している。 キャリア教育については、学校が関わって小学校低学年から事細かくやっており、キャリア教育自体の必要性はある。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の産業を子どもに教えることが求められていると思う。 子どもたちが本物に触れる機会を用意することが重要。メダリストによる学校訪問やプロのコンサートなどで子どもたちの目が輝いているのを見た。 以前は進路指導という取扱いだったが、実際に体験的なものは少なかつたため、今後も進めていくべきである。 校長や教育委員会が未来像を描き、市に貢献できる人材を育成しなければならぬ。 地域とのコミュニケーションは大学教育に限定するものではなく、大学に行かない子どもたちにもっと早い段階で行っていくべきである。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の産業について子どもたちに伝えるための取組の推進(学校教育における地域教育の推進) <ul style="list-style-type: none"> →職場体験、体験学習の充実 →キッズアニア的な取組の推進 →教育への地域講座
②学校教育	つながりを生かした就職支援	子どもたちの就職に関し、地域や保護者の関わりが不足している。	旭川の雇用がなく道外へ就職してしまうので、就職先を官民から提供したり、親の働いている企業とのつながりで就職先を提供できないだろうか。	<ul style="list-style-type: none"> 就職に関し、地域や保護者からの支援を充実するための仕組み等の検討 <ul style="list-style-type: none"> →高校のPTAが横のつながりを生かし、就職支援に取り組むための組織を創設
②学校教育	<ul style="list-style-type: none"> 地域教育の推進 子どもを取り巻く課題への対応 	<ul style="list-style-type: none"> 旭川らしさを教育に取り入れていない。 「より良いまち」づくりのために、①旭川に愛着、誇りを持つことのできる生徒、②人間性豊かな子どもを育てることが重要 施設、組織、人的資源の活用のための情報窓口の整備などの課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 「地域、家庭、学校」の三者連携で 年間指導計画を見直し、体験活動を積極的に活用(キャリア教育、ボランティア) 旭川で育った子どもに期待する未来像は、高い知識や技術を身に付け、日本や世界に寄与できる存在になってほしい、または、旭川に還元できる存在になってほしい、地元旭川で仕事をして、結婚して、子育てをして旭川を盛り上げる存在になって欲しい。 そのためには高い技術や知識に触れる機会がなければならない。 学校からの情報発信(生活面、学習面の方針、成果と課題) 市教委、PTAを中心とした地域単位での研修会の開催(市全域での取組の推進) (例)スマートフォンなど情報機器の使用ガイドライン作成など 	<ul style="list-style-type: none"> 地域を学ぶ、地域に学ぶ、地域で学ぶ活動の推進 <ul style="list-style-type: none"> →年間指導計画を見直し、体験活動を積極的に活用(キャリア教育、ボランティア) 子どもを取り巻く課題へ同一歩調で対応 <ul style="list-style-type: none"> →学校からの情報発信(生活面、学習面の方針、成果と課題) →市教委、PTAを中心とした地域単位での研修会の開催(市全域での取組の推進)

項目	個別施策名（タイトル）	本市の地域資源と課題	委員意見（施策の方向）	実現のための提言
②学校教育	キャリア教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・教育だけではなく、社会そのものにも問題がある。 ・学生の現状はかなり深刻な状況でどうかしなければ、5年後、10年後に子どもが社会の中心を担う時には大変になると思う。 ・キャリア教育は、文部科学省では更なる充実という方向性が示されているが、いっこうに進んでおらず、市の教育方針にも記述がない。 ・キャリア教育には学校内での取組と学校外での取組がある。学校外は結構進んでいるがお金のある家、親の意識が高い家しかキャリア教育を行えないという問題点がある。 ・学校での職場訪問などイベント型の教育が不足しており、更に責任を持って行動するといった教育が行われていないのは、教員や学校、市教育委員会に問題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育について、家庭事情、得意な分野、発達状況など、その子どもによって状況は異なる。それらを総合的に踏まえた上で、グローバルな視点に立ち、何ができるかを考えていくことが大事 ・企業での教育も重要 ・教育ではなく社会そのものにも問題があるようにも思える。そういったことを幅広く考えていく必要がある。 ・旭川市の教育委員会で地域素材の活用は位置付けされているが生かせていない。食育やキャリア教育など多くのことを求められ全てのことがやりきれない現状にある。新しい人材を入れると育成に時間がかかり他のことに時間を割けなくなる。 ・キャリア教育は学校内での取組が重要 ・旭川では就職難を打開するためのキャリア教育が重視されていない。企業はキャリア教育が大事だと思っているが、主体とならず協力のみにとどまっている。上越市を参考に推進連絡協議会を立ち上げてはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育の推進 ・総合的な学校教育の推進
②学校教育	PTAによる家庭・学校・地域との連携による地域の活性化、安心・安全なまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・学校と地域とを結ぶ人材（コーディネーター）が必要と言われており、リタイヤした人かPTAがやっていることもある。 ・予算が限られているが、限られた予算を有効により良く使われるように市に訴えることが、PTAの仕事でもある。 ・地域の方との安全・安心なまちづくり ・町内会と一緒に子どもの見守り、お年寄りの見守りなどのボランティア、防犯・除雪の取組に積極的に参加 ・学校行事、地域のおまつり、町内会とのかかわりにも参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校のPTAとしてできることは、学校行事への参加、家庭・学校・地域との連携による地域の活性化 ・先生方が分からないことをPTAで話をつなぐシステムができていところもある。PTAの役割が重要だと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA活動の促進 →市・教育委員会、地域と連携した新たな事業展開、取組強化 →PTA活動による保護者のメリット充実に向けた仕組み等の検討
②学校教育	<ul style="list-style-type: none"> ・PTAによる市イベントへの積極的な参加 ・郷土愛の育成 ・地域企業における職場体験 	<ul style="list-style-type: none"> イベントへの積極的な参加 市のイベント（烈夏みこし、冬まつり）や大きな行事への参加、体験活動などの主催、歴史や伝統の親子共有、地場産業の職場体験（JAの田んぼアート）、自然を生かしたイベント主催（冬のファミリームーブメント） 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたち主体（企画・運営）のイベントを親が支えることは、郷土愛を育てることにつながる。 地域企業との職場体験イベント主催・共済することは、地元の職場を知り興味を持ってもらうことで就職につながる。 歴史や伝統を伝えるイベントを企画し、郷土愛を育てるための学びの場を創出 	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA活動の促進 →市・教育委員会、地域と連携した新たな事業展開、取組強化 →PTA活動による保護者のメリット充実に向けた仕組み等の検討
②学校教育	PTAサポーター制度	<ul style="list-style-type: none"> ・PTAも仕事を持ち忙しい人ばかりだが、やろうと思えばできる。活動は分野で分かれており、みな忙しい中取り組んでいるが、各学校では担い手不足である。 ・実際には、PTAをやって良かったという声が多い。 	サポーター制度で全員に役割を持たせるといった取組も行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA活動の促進 →市・教育委員会、地域と連携した新たな事業展開、取組強化 →PTA活動による保護者のメリット充実に向けた仕組み等の検討
③高等教育	高等教育の充実	旭川の大学、専門学校の実用性を考えるべきである。家具、木工の技術者を旭川で育て、旭川で働けるように「木工技術の専門学校」を作る必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・そこで育った若者の技術やデザインが、木工産業を盛り上げ、世界に向けて発信していけるような教育システムを、市が本気になって作り上げることが必要 ・市、関連企業が協力し、自分たちの企業を担っていく若い人材を育てていく仕組み（教育の場）を作り上げることが必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・市による木工産業に係る新たな教育システムの創設 ・市、関連企業が協力した人材育成の仕組み（教育の場）の創設
③高等教育	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民による大学の活用 ・学生と地域・市町村とのネットワークの構築 	<ul style="list-style-type: none"> ・最近の学生は、社会人基礎力が低い。 ・大学でも高齢者を招いての交流会などを行っており、民生委員とも交流する機会がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学をもっと活用してもらい、共に学び合うことができればと思う。 ・中高生も大学に来てもらえればと思う。地域も含めみんなで学び合えればと思う。 ・学生を学内に留めるのではなく、地域や市町村等とのつながりといったネットワークが重要視されるべきである。今できることは、学生に様々な見本を見せることで夢を抱いてもらえるように、学生を旭川市内に出していくことである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・開かれた大学運営の促進 ・ウェルビーイングコンソーシアムと市、民間企業、地域との連携充実 →ウェルビーイングコンソーシアムの周知 →ウェルビーイングコンソーシアムの機能・体制強化

項目	個別施策名(タイトル)	本市の地域資源と課題	委員意見(施策の方向)	実現のための提言
③高等教育	漫画・アニメ等の文化に係る情報発信の充実	旭川にいる漫画・アニメの作者が結構いる。	漫画・アニメのジャンルの文化を旭川から発信することが必要	<ul style="list-style-type: none"> 将来的な漫画・アニメのジャンルに関わる人材を育てる専門学校の誘致、開設 冬まつりの時期に、漫画・アニメのジャンルに関する発表の場を作り、人材の養成、発表のチャンスを与える取組の創設
③高等教育	良好な人間関係の構築	<ul style="list-style-type: none"> 普通科の高校生が就職できない。総合大学に行き、希望ではないところに就職し、やめてしまうことがある。 コミュニケーション能力はそんなに低くないというデータがある。自分達で考えない、言われたことしかやらないことが最大の問題点 引きこもりが全国で63万人。3年離職率は、全国平均は753。中学が7割、高校が5割、大学が3割。北海道は864。 	<ul style="list-style-type: none"> 大学生は、コミュニケーションができない訳ではなく、周りの接し方次第でうまくコミュニケーションをとることができる。 大学や臨床のみならず、他の分野の人と出会い、人間関係を築き、学習の場を拡大していけたら良い。そうすれば旭川のことも好きになると思う。 人と人とのつながりを上手に築きながら目的を達成できるような人材育成を目指すべきである。 	<ul style="list-style-type: none"> 学生に温かいまちづくりの推進 →将来の担い手をつなぎとめるため、高等教育機関や高校生に旭川の魅力と地域資源を伝えるための取組の推進
④社会教育	自発的な学習の推進	いつの時代もしっかりしている子どもとそうでない子どもがいる。日本の教育が今あるのはこれまで教育の現場が努力して底上げを図ってきたから。教育と学習の違いを考えるべきで、自ら学習することが重要である。なぜキャリア学習にできなかったのか疑問	自分の好きな道は自分で探るのが良い。自分でやりたいことがあれば、必ず自分で探すと思う。今の若者は自分たちの世代に比べて圧倒的に優れていると思う。	<ul style="list-style-type: none"> 情報の共有化の更なる推進 市民活動の促進 →市民活動交流センターCoCoDe、シニア大学の機能充実
④社会教育	リタイヤ人材の活用	団塊世代のリタイヤ人材の活用について、リタイヤした人たちは、自分の能力を社会のためにどこかで発揮することを望んでいるが、どこに接触したら良いかわからないという人たちが多くいる。	<ul style="list-style-type: none"> 校長や教頭をやっていた人や、企業でバリバリ働いていた人に出てきてもらって、人材育成していくことが重要であり、ある程度の年齢になり悠々自適に暮らしている人に活躍してもらわなければ、人口減少が進む中、社会がうまく回っていかなくなる。 帯広では、リタイヤ世代の方がコーディネーターとして活躍しているため、今後旭川でもできれば良い。 60歳以上が参加するボランティア団体を今年立ち上げたが、年をとったからこぞできることがある。子育てを終了した世代が子育てをしている世代を支援していく必要がある。 子育てを終了した世代によるサポートが必要 市民の誰もがいつでも集える場を作り、サポートすること。 市役所の庁舎整備に合わせて交流の場を設けてはどうか。若い人が何かあると思って来れば、リタイヤ世代との交流も生まれ、手伝えることもあると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> リタイヤ世代活用のための人材育成、拠点の整備等 高齢者人材バンクの創設 →高齢者人材を活用する取組は複数あるため、それらの一元化を図る。 →シニア大学を人材育成・拠点に位置付ける。
④社会教育	高齢者の人材バンクの創設	団塊世代のリタイヤ人材の活用について、リタイヤした人たちは、自分の能力を社会のためにどこかで発揮することを望んでいるが、どこに接触したら良いかわからないという人たちが多くいる。	各PTAでいつでも紹介可能な高齢者の人材バンクなどを設けるのはどうか。	<ul style="list-style-type: none"> リタイヤ世代活用のための人材育成、拠点の整備等 高齢者人材バンクの創設 →高齢者人材を活用する取組は複数あるため、それらの一元化を図る。 →シニア大学を人材育成・拠点に位置付ける。
④社会教育	異世代交流の推進	<ul style="list-style-type: none"> 異世代の交流の機会が少ない。 子育てで母親は周りに頼る人がおらず、一人で全ての責任を背負っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 体験活動が重要。三浦綾子作文コンクールの応募作品の中に、小学生が百人一首で高齢者と交流する話があったが、普段は合わない世代との交流でかわいがられ、話す機会も増え、コミュニケーション能力も高まると思う。どの分野でもいいが、できれば継続的に、単発でもそういった仕掛けが必要。場は市から公民館を提供するなどの支援を行うことも考えられる。色々な人に関わってもらえば子育ての間接的な支援にもつながるし、リタイヤした人たちから職業の話も聞ける。幅の広い見方ができればと思う。 定年を迎えた世代とのつながりを創出し、手助けすることが重要 子育てはおじいちゃん、おばあちゃんや、地域からの支援が助けになる。地域のつながりや周りの環境が重要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 体験活動の充実 リタイヤ世代活用のための人材育成、拠点の整備等 高齢者人材バンクの創設 →高齢者人材を活用する取組は複数あるため、それらの一元化を図る。 →シニア大学を人材育成・拠点に位置付ける。 地域交流拠点の整備・充実

項目	個別施策名（タイトル）	本市の地域資源と課題	委員意見（施策の方向）	実現のための提言
⑤文化	文化の振興	まちに文化がなくなると、まちは終わりへ向かってしまう。	未来に何を残せるかが問われている。	・文化の振興
⑤文化	見本林、三浦綾子記念文学館を活用した経済活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・三浦綾子記念文学館は、全国に発信する価値があるオンリーワンの場所 ・外国樹見本林の圧倒的なインパクトと合わせて素晴らしいロケーションである。 ・国道237号線、美瑛・富良野も近い。 ・本州方面で三浦文学の人気が出ている。 ・安全、自然志向の高まり 	<ul style="list-style-type: none"> ・見本林を整備し、付加価値を付けることで癒し、自己発見、人性の素晴らしさ等を感じられる場所になる。 ・これらの取組を実施することで恒久的に人を集めることのできる場所になる。 	・見本林、三浦綾子記念文学館を活用した経済活性化
⑤文化	旭川市 文化祭月間の創設	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽の町だけではなく、文化活動も盛んなまちである。ただし、現時点では多様な文化活動がそれぞれの団体の努力によって進められ、維持されているのが現状である。旭川市としてのかかわりは薄い。 ・財政的な問題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市として「文化都市 旭川」のビジョンをしっかりと作り上げ、市として（市民に）働きかけていく必要がある。 ・各分野の代表が集まり、月間スケジュールを作り、数年間の予定を立て、発表の場を整備していくことで、大きなビジョンを作りあげることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市主催の「文化祭」のようなものを企画 ・文化の日を中心に、「旭川文化祭月間」を作り、色々なジャンルの文化発表の場を提供する。 ・旭川市における文化に関する大きなビジョンの策定 ・ビジョン策定後の市からの支援
⑥芸術	音楽振興の更なる推進	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯音楽学習の推進については、平成6年11月「音楽文化の振興のための学習環境の整備等に関する」法律が制定された。所謂、（略称）“音楽振興法”ができ、音楽教育振興財団（トーン会長）の故・三浦 規氏が旭川市出身であったこともあり、全国に先駆け旭川市が生涯音楽学習の推進モデル都市となってほしいとの強い働きかけで発足準備委員会を結成し、平成8年2月に旭川音楽振興市民会議、現在の「AMP旭川音楽振興会」が発足した。 ・「AMP旭川音楽振興会」は会員数約150名で様々なメンバーで構成しており、「音楽の街・旭川」の一層の充実を目指すとともに、音楽会等を通してまちの活性化を図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全国に先駆けて創設されたことは誇りとすべき。 ・手弁当で各種事業を行っている。 	・「音楽の街・旭川」の歴史・活動などの魅力再発見に向けた取組の充実
⑥芸術	音楽振興の更なる推進	<ul style="list-style-type: none"> ・「AMP旭川音楽振興会」では、「望郷の鐘コンサート（国際音楽の日記念事業）」や「旭川市新人音楽会」などに取り組んでおり、一定の評価を得ている。 ・PMF（パンフィック・ミュージック・フェスティバル）の旭川公演が今年行われた。旭川での開催は、当初教育委員会文化振興係が主催していたが、その後、「AMP旭川音楽振興会」が中心となり実行委員会を組織して、地元企業等の支援と市・市教委と共催により実施。平成15年より各種アンサンブル4回、オーケストラ2回の計6回の演奏会を開催している。 役員や会員の高齢化が進み、担い手が不足している。設立当初の音楽振興法に基づいた目的や理念等が次第に忘れられてきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「旭川市新人音楽会」は、市の事業となることを期待して「旭川市」としたが、現在も「AMP旭川音楽振興会」の取組となっている。 ・PMFは世界的な音楽コンサートであり、地元で世界レベルの音楽に触れられる機会はめったにない。 ・担い手の育成や会員への特典付与、事業の見直しなどの取組が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・市による積極的な音楽振興 ・市民への広報活動の推進 ・団体運営を担う人材育成 <ul style="list-style-type: none"> →市やNPOによる団体運営に係るノウハウの提供、支援
⑥芸術 ⑨文化財	音楽資源の活用	故・三浦規氏から寄贈されたカリヨンは以前買物公演（現フィール前）にあったが、花咲スポーツ公園に移設された。現在は故障している。	修理に多額の費用がかかるのとことで対応されていない。そもそも余り人通りのないところに設置されていることが問題	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽資源の調査、活用 <ul style="list-style-type: none"> →音楽資源をまとめたマップ、ホームページの作成 →音楽教育に、「旭川の音楽」をテーマを追加 ・カリヨンの修理、移転
⑤文化 ⑦スポーツ・レクリエーション	（文化、スポーツ等の）旭川市賞の創設	旭川には文化・スポーツで活躍する多くの人材がいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・文化活動だけではなく、スポーツに関する人材育成が必要 ・その年度の最も成績が良かった個人、団体などに与えることで、賞状1枚であっても、市として努力、成績を認め称えることで、市民や若者の技術や意識、目標などを高めていくことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・旭川市賞の創設（スポーツ・文化分野） <ul style="list-style-type: none"> →学校や競技団体から、その年度の成績を報告してもらい、教育委員会とスポーツ団体が協議し、該当者を選定する。

項目	個別施策名（タイトル）	本市の地域資源と課題	委員意見（施策の方向）	実現のための提言
⑤文化 ⑦スポーツ・レクリエーション	（文化、スポーツ等）色んな分野の）連絡協議会の設立	子どもや若者ために夢や意欲を持たせていくために知恵を絞る必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> 市と各分野の代表が、協議の場を設立し、市としての人材や技術向上の長期的な夢を作り上げていくことが重要 若者に夢や希望、意欲を持たせ、旭川で生きていることの喜びや充実感を抱かせることにより、旭川のために学び、努力し、働く、人材を育て上げることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> （文化、スポーツ等）色んな分野の）連絡協議会の設立
⑦スポーツ・レクリエーション	スポーツ施設の整備充実	<ul style="list-style-type: none"> 屋外の運動施設はある程度整備されているが、屋内の運動施設の整備が不足している。 まちづくり市民意識調査でもスポーツ・レクリエーションの施設の整備充実に関する意見が多い。 	屋内の運動施設の整備充実が急務である。	<ul style="list-style-type: none"> 屋内運動施設の整備推進 東光スポーツ公園における複合的な施設整備の推進
⑪家庭教育	PTAによる親の学びの場の創出 家庭教育の充実	親・先生への学びの場をつくる 地域連携・子育てにおける学び（研究大会・母親研修会）	<p>テーマをより良いまちづくりとし、内容を考え、多くの親と一緒に考えることで家庭教育の充実につながる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 家庭教育について、研修の場で気づきを得られることが多いので、そういった親の教育の場所が重要と感じている。 	<ul style="list-style-type: none"> PTA活動の促進 <ul style="list-style-type: none"> →市・教育委員会、地域と連携した新たな事業展開、取組強化 →PTA活動による保護者のメリット充実に向けた仕組み等の検討 PTAによる親の学びの場の充実 家庭教育の充実
⑪家庭教育	家庭教育の充実	昔の看護養成所では、看護だけではなく、アルバイトを通じて社会性を学んできたと思う。根本は家庭教育である。未熟な大人が指導しており、本来の家庭教育の在り方が欠けているため、人と対応する常識が欠けるようになったのではないか。	<ul style="list-style-type: none"> 家庭教育が一番だとは思いますが、親が平均的なところまで成長していない。家庭教育を今後どのようにやっていけばいいかということ。 各家庭における家庭教育の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭教育の充実 <ul style="list-style-type: none"> →市教委による広報活動の推進 →PTA、地域による家庭教育講座等の推進

個別施策シート

【第2分科会からの意見】 → 【全分科会へ】

	項目	個別施策名(タイトル)	本市の地域資源と課題	委員意見(施策の方向)	実現のための提言
共通	その他	既存資源の活用	既存資源の活用が足りない。	既存のものをどのように活用するか。現状について情報を集め、分析しながら良い方向に変えていくという提案がこの分科会でできればと思う。	・既存資源を活用したまちづくりの推進
共通	その他	一生懸命な人への支援	一生懸命活動する人が限られている。	はしっくすでは、大学生だけではなく、小中学生や高校生とも連携し一緒に活動を行っている。一生懸命活動する人への支援が必要である。	・市民活動の促進 ・NPO等の市民活動団体のネットワーク化の促進 ・NPO等の市民活動団体と地域との連携の促進
共通	市民活動	NPO等の結成や活動支援	市内にNPO法人が多くあるが、どのように作ったら良いのかわからない。	資金についても、自分たちで考えて確保していくことが重要である。人材育成や活動支援などに取り組んでいくことが大切である。	・市民活動の促進 ・NPO等の市民活動団体のネットワーク化の促進 ・NPO等の市民活動団体と地域との連携の促進
共通	市民活動	まちづくりの担い手のネットワーク化	情報が集中する場がないと、せっかくの活動が活かされずもったいない。	リーダーをまとめていくと更に良いことができると思う。	・まちづくりの担い手のリーダー的人材のネットワーク化を図る。
共通	市民活動	得意分野を生かした支援	得意分野を生かした社会貢献が足りない。	子育てに関わる職業の人であれば、子育てのアドバイスや情報等を伝えることなどができる。また、教師であれば、得意分野を生かし問題行動やいじめなどの問題へのアドバイスをすることができる。 ・子どもを生んで育児休暇を取っている教員などがいれば得意分野を生かして支援できると思う。	・得意分野を生かした社会貢献に係る支援 →まちづくり人材バンク制度の創設
共通	市民活動	対話によるまちづくり	市民同士の意思疎通が不足している。	互いに議論しながら何が正しいのか導き出すこと、すなわち「対話」が重要だと思う。「対話」から生まれることがある。	・まちづくりの担い手同士のネットワーク化
共通	市民活動	人材育成	市民活動に係る人材の育成を行うための役割分担が不明	これからは、リーダーの養成が必要で、公的機関も協力しながら色々な世代の人材を育てていく必要がある。	・まちづくりリーダーの養成 →地域、NPOと同じフィールドで人材育成をすることによるリーダー養成を通じて、地域とNPOの連携強化を図る。
共通	市民活動	情報の共有化	講義をお願いしたい場合に、どこに行けば良いのかわからない。	・(市民が集える拠点の情報)市民に情報として広がり、共通認識となれば良いと思う。 ・今あるものを大事に使っていくのも一つの方法だが、情報が一元化された場所があれば便利だと考えた。	・情報の共有化の更なる推進 ・市民活動の促進
共通	地域	その他	地元の良さを分かっていない人が多い。	地域に関する教育を推進する。	・地域の魅力再発見に向けた取組の推進
共通	行財政運営	その他	相談窓口は既に色々存在しており、子育て相談や預かりの情報は知っているはず。広報に問題がある。そこに行くかどうかは本人次第である。	気楽に行けるような環境づくりが重要	・利用しやすい相談窓口づくり
共通	行財政運営	まちづくりの方向性	長いスパンでのビジョンが共有化されていない。	・50年、100年、150年の長いスパンでビジョンを持つ必要がある。 ・目先の効果ではなく、育て上げ、作り上げ、定着していく目標を持つことが必要であり、長期的に継続していくために、市と経済界、市民とが組織を作り、知恵と力を出していくことが必要 ・依存することなく、互いに知恵を出し合い、力を出し合うことが重要であり、市民も市も企業も、「自分たちで、自分たちの町を作るのだ」という心を作っていかなければならない。 ・金銭的にも、権限的にも、人力的にも「良い町を作りには、何を、どうすれば、実現できるのか」を考え合っていくことが重要	「自分たちで、自分たちの町を作る」という心を作るための取組の推進

個別施策調整シート

【第2分科会からの意見】 → 【第1分科会（福祉・子育て）】

	項目	個別施策名（タイトル）	本市の地域資源と課題	委員意見（施策の方向）	実現のための提言
第1分科会（福祉・子育て）	子育て支援	まち全体で子育て	子育て支援が重要	まちの子どもは自分たちの子どもとして、まち全体で子どもを育て、支援していくべきである。	<ul style="list-style-type: none"> • 地域における子育て支援の充実
第1分科会（福祉・子育て）	子育て支援	子育てをしやすい環境づくり	子育て支援が重要	子育てについて、子育て中の親が集まり、フォローやケアをできるようにすべき。	<ul style="list-style-type: none"> • 子育て世代への支援の充実
第1分科会（福祉・子育て）	健康	健康寿命の延伸	食生活の向上や飽食等によりガンや脳卒中、心臓病などの生活習慣病が増えているが、医療の進歩により平均寿命は延びている。	健康寿命の延伸が求められている。	<ul style="list-style-type: none"> • 健康寿命延伸に向けた健康づくりの推進

個別施策調整シート

【第2分科会からの意見】 → 【第3分科会（安全・都市基盤）】

	項目	個別施策名（タイトル）	本市の地域資源と課題	委員意見（施策の方向）	実現のための提言
第3分科会（安全、都市基盤）	環境・リサイクル	その他	自然保護等を一生懸命にやるが、その反面、アイドリングなど矛盾した行為を行っている人がいる。	市民意識の改革（向上）	・市民意識の向上に向けた周知活動等の推進
第3分科会（安全、都市基盤）	都市基盤	つつじ公園の造成	旭川の花である「つつじ」を象徴するような公園がない。	人が見ても、集まっても楽しめる「つつじ公園」「つつじ広場」を既存の公園に増設し、緑を増やし、自然環境豊かな旭川をつくることで、観光資源として活用でき、人々を呼び込める美しい町を作り上げていくことが可能となる。	・つつじ公園の造成
第3分科会（安全、都市基盤）	都市基盤	常磐公園を核とした活気あふれるゾーンの形成	<ul style="list-style-type: none"> ・常磐公園には、川、緑、文化施設、池、大きな広場などがある。 ・常磐公園があるのに駅裏に新たな広場の設置した意図が不明 ・駅から流れをつくるのではなく、常磐公園からが不可欠 ・イベントで一時的に集客するのは容易だが、日々人々が往来するゾーンを形成するのは難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・常磐公園に商業施設、子どもたちや家族が遊べる施設等を新たに作ることで市民が行きたくなくなるような魅力いっぱいのゾーンを提供 ・そこから、6・7条までは文化の香りを幅広い年代が楽しめるゾーン、施設等。 ・5・4条から宮下までは飲食、ショッピングゾーン。 ・旭川の中心である買物公園を妥協せず、創造あるゾーンを創りあげてほしい。 ・民度・文化度をアップして、官民一体の協力のもと、危機感を持ち、努力を重ねることが急務 	・常磐公園を核とした活気あふれるゾーンの形成

個別施策調整シート

【第2分科会からの意見】 → 【第4分科会（産業・交流）】

	項目	個別施策名（タイトル）	本市の地域資源と課題	委員意見（施策の方向）	実現のための提言
第4分科会（産業・交流）	産業	若者が集まる町に向けて	町が活気づき、生き生きするには、若者が暮らしやすく。働きがいのある町でなければならない。	旭川で勉強した若者が、市外に目を向けるのは、旭川の町に働きたい職場が少ないからである。	<ul style="list-style-type: none"> ・町の力になる若者を集めるために、旭川でしっかり勉強し、旭川で働きたいと思う環境を作り上げていくことが必要
第4分科会（産業・交流）	産業	企業誘致の推進	旭川は冬の寒さ、降雪の問題はあるが、地震・洪水などの自然災害が少ないまちである。	利点をPRし、企業誘致を押し進める必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・企業誘致の推進
第4分科会（産業・交流）	産業	市民が集えるマーケット作り	<ul style="list-style-type: none"> ・函館の朝市のように、有名な市が各市にあり、市民の日常生活のサイクルの中に組み込まれている。 ・食ハマルシェは、単発的で市民の生活サイクルには定着しにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・旭川でも市民生活に組み込まれるような朝市を作ることでまちの活性化につながる。 ・日常的に継続的に開催するマーケットを開催することにより、農家の生産活動にも波及し、生産意欲を高めていくことができる。 ・市民に「あの市があるね」という意識を植え付けられるようにすることが不可欠 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民が集えるマーケット作り
第4分科会（産業・交流） 共通	産業	発信力（広告力・デザイン力）を生かしたまちづくり	旭川はデザインや家具で有名だが、ある時、市のポスターを見たところ、デザイン力が皆無であり、デメリットになるので使うのはやめた方が良かったことがある。	広告には伝達力、やる気を起こさせるパワーがある。広報誌もそうだが、色々なことにもっと取り組むべきである。	<ul style="list-style-type: none"> ・発信力向上のための支援充実 ・市広報活動の更なる充実